



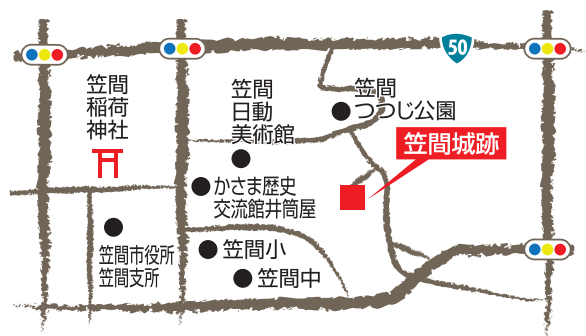
— 特集 —

笠間城跡を 後世につなぐ



笠間城跡は標高 207m の佐白山上に立地し、独立丘陵の西端部の複雑に入り込む浸食谷により形成される尾根を巧みに利用した石垣を備えた山城跡です。遺構の残存状況や、城郭としての史的価値などから一部が笠間市指定史跡に指定されています。また、平成 29 年には「続 100 名城」にも選ばれた茨城県を代表する城郭です。

市では、貴重な文化財である笠間城跡を後世に残していく取り組みを行っています。



笠間城跡とは

笠間城は中世に起源を持ち、近世は笠間藩の居城として機能していました。政務を執り行う下屋敷（現 佐白山ろく公園）が整備されたあとも廃棄されることなく、明治維新後に廃城となりました。戦後、城内に観光道路がつくられ、本丸跡が城址公園として開放されています。

● 笠間城のはじまり

塩谷朝業の子である笠間時朝によって承久元年（1219）に築城が開始されたとされ、以後笠間氏の居城となります。

● 城主の移り変わり

天正 18 年（1590）、笠間氏は豊臣秀吉の小田原征伐の際に、主家である宇都宮氏の命に背いたことにより没落したといわれ、以後宇都宮氏家臣である玉生高宗が城主となります。慶長 3 年（1598）、蒲生秀行の宇都宮移封に伴い、その重臣である蒲生郷成が笠間城主となります。関ヶ原の合戦後、徳川氏譜代の松平康重が入城し、初代笠間藩主となります。

その後、藩主が幾度と入れ替わりますが、延享 4 年（1747）に牧野氏が封ぜられると、牧野氏の下で明治維新を迎えます。浅野氏が藩主の時代、政務を行う下屋敷が整備されますが、山城部分は廃棄されずに存続しました。また、井上氏・牧野氏の時代に笠間城の修復がされており、修復願が幕府に提出されるとともに、修復に関わる絵図が伝来しています。

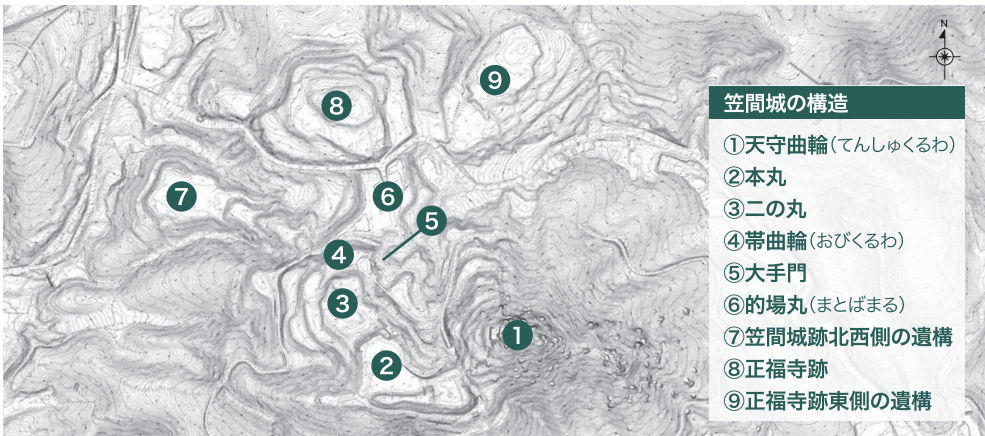
後世につなぐために ―笠間城跡保存整備調査事業―

平成23・24年度に行われた基礎調査で、笠間城跡は上位史跡（茨城県指定・国指定）相当の価値があるかもしれないということが分かりました。令和9年度に上位史跡の指定が受けられるよう、笠間城跡調査指導委員会からの助言・指導をもとに、城跡の保存と申請に向けて調査を続けていきます。

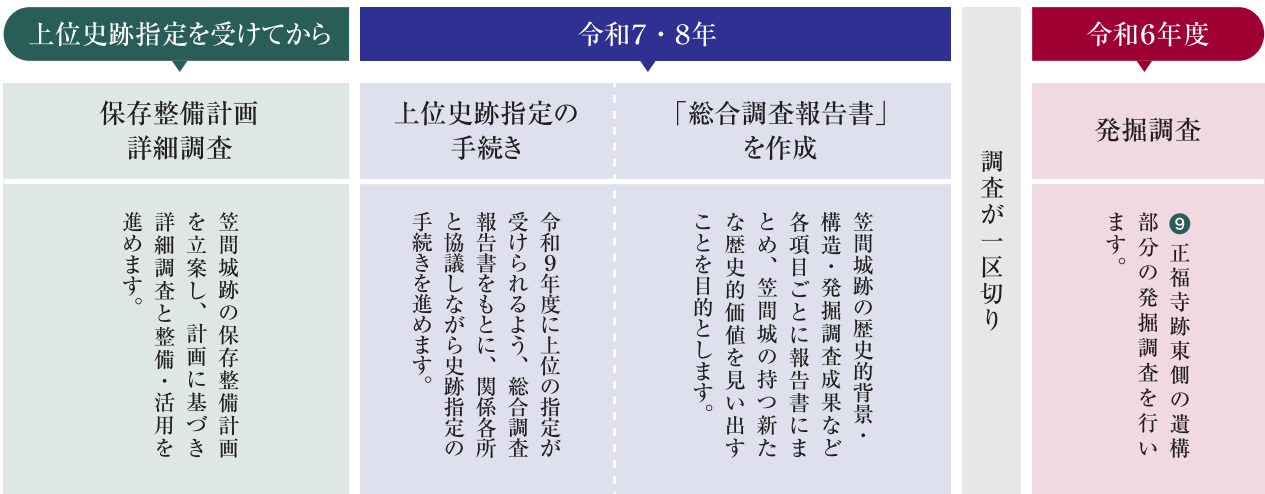
これまでの主な取り組み

- 石垣応急処置調査（平成26年度）
崩落した天守曲輪の応急処置と測量調査を実施し、石垣の基礎データを収集。
- 地形測量の実施（平成27年度）
城跡の範囲と地形を把握するために、航空測量と図化を実施し、近世笠間城跡を中心に1/500スケールの図面を作成。
- 天守曲輪中段・上段石垣測量（平成28年度）
応急処置の際に実施した測量調査を、中段・上段の石垣でも実施。
- 本丸跡地中レーダー探査（平成29年度）
地中レーダーで本丸部分の地下探査を行い、遺構の残存状況を確認。
- 微地形測量（平成29年度・令和2年度～5年度）
発掘調査箇所の微地形測量を事前に行い、詳しい地表面情報を蓄積（本丸跡・正福寺跡・北西の遺構・正福寺東側の遺構）。寺院に伴う遺構や待屋敷と思われる痕跡が見つかる。
- 危険樹木の伐採（平成27年度）
石垣に影響がありそうな樹木や千人溜駐車場周辺の樹木の伐採・剪定。
- 古文書調査（平成26年度）
牧野家文書の中で笠間城に関係のある古文書の翻刻作業を実施。今後さらなる分析を実施。
- 笠間歴史フォーラムの開催（平成27年度）
笠間城跡の調査成果を報告することともに、笠間の歴史に関する講演会を開催。

特に周辺地形図ができたことで、笠間城周辺の遺構の広がりや残存状況を把握できたことは大きな成果です。また、発掘調査の成果により、近世笠間城の周辺遺構から中世までさかのぼる可能性がある痕跡も確認できました。



これからの取り組み



笠間城跡をもっと知る

問 生涯学習課
(内線 381)

市ホームページ

「笠間城跡保存整備調査事業」を詳しく紹介しています。



かさま歴史ブックレット

笠間歴史フォーラムの内容などを書籍化したシリーズ本。今まで刊行された市史などでは語りつくせない市の歴史が詰まった内容です。販売と市内図書館での貸出を行っています。



| 販売場所 | 生涯学習課・かさま歴史交流館 井筒屋 価格:各500円